

あぐりまにわ



美作県民局農林水産事業部
真庭農業普及指導センター

表紙の写真説明

講習会でアシストスーツを紹介

ぶどうの花穂整形作業などで腕を上げる動作の負担軽減を目的に、アシストスーツの導入を図りました。

アイガモロボット現地研修会

水稻栽培で毎年新たなスマート農機の情報提供をしています。今年是有機栽培で取り組みました。

新庄村白ねぎ道場

新規栽培者の掘り起こしを目指して、年間3回実施しました。

蒜山リンドウの収穫作業

産地の維持・活性化のため、新規栽培者の確保や生産量の向上につながる支援をしました。

真庭いきいき帰農塾支援

ぶどう産地の活性化のため、定年帰農者等を対象に技術習得支援を行いました。

大根のちょうちんぎり加工技術の伝承

地域の食文化や郷土料理などを次の世代に正しく伝えられるよう取り組みました。

I 特集 高品質ぶどうの安定生産と次世代ぶどう産地づくり

- 【1】 真庭市ぶどう産地の一層の発展に向けて活動しています・・・ 1

II 地域の動き

- 【2】 研修会で交流を深める・・・ 2
 【3】 青年農業者クラブが農業の楽しさをYou tubeで発信・・・ 2
 【4】 全国和牛能力共進会鹿児島大会ルポ・・・ 3
 【5】 りんどう産地振興がんばっています・・・ 3
 【6】 専門家を活用した経営改善を支援しています・・・ 4
 【7】 未来に伝える真庭の郷土料理～レシピ動画で技術伝承～・・・ 4

III 技術の紹介

- 【8】 スマート農業技術！アイガモロボット発進！・・・ 5
 【9】 肥料の被覆殻流出問題の解決に向けて・・・ 5
 【10】 白ねぎの収量向上対策のため栽植密度を検討しました・・・ 6
 【11】 白ねぎ夏どり品種を調査しました・・・ 6
 【12】 夏秋トマトの葉先枯れ対策について・・・ 7
 【13】 ぶどうの粒間引き作業負荷軽減に向けて～肩こり良くなるかな～・・・ 7

IV 新規就農者の紹介

- 【14】 はじめまして！よろしくお願ひします～新規就農者の自己紹介～・・・ 8

V 受賞者の紹介

- 【15】 祝！受賞！おめでとうございます・・・ 9

VI 新任農業士の紹介

- 【16】 普及活動にご協力をお願いします・・・ 10

真庭農業普及指導センターでは、本年度からトップ重点課題を「高品質ぶどうの安定生産と次世代ぶどう産地づくり」として、新規栽培者の確保・育成と高品質安定生産技術の普及により安定した産地づくりに取り組んでいます。また、「地域農業を支える意欲ある担い手の育成・支援」と「先進的技術の確立・普及と力強い産地の育成及び支援」を活動の2本柱として、新規就農者や経営感覚に優れた経営体の育成、マーケティング戦略等による儲かる農業や農産物のブランド力強化、農作物の安全・安心の確保について推進してきました。

【1】真庭市ぶどう産地の一層の発展に向けて活動しています

真庭市のぶどう産地は小規模な農家が多く、高齢化が進み、産地の縮小や園地の荒廃が懸念されています。一方で、シャインマスカットの登場による好調な販売情勢やハイブリッド産地育成事業の導入によりぶどう栽培への機運が高まり、新規就農者の確保など、産地の維持発展につながっています。さらに、JA晴れの国岡山まにわぶどう部会は、新選果場での一元出荷が始まり、びほくぶどう生産部会北房支部は、「天空の実」や「美王」などの新たなブランドや規格を活かして販売力向上の取り組みが行われています。

普及指導センターは、真庭市のぶどう産地の一層の発展へ向けて、本年度からトップ重点課題として幅広い活動を支援しており、その一部を紹介します。

①新規栽培者の確保と育成

新規参入者を確保するために、7月と11月に就農オリエンテーションを開催しました。その結果、久世地域で1人、落合地域で1人の農業体験研修生を受け入れました。

一方、北房地域では1人が農業実務研修を実施しており、就農後は部会加入を予定しています。特に北房地域では研修生の円滑な就農に結びつけるため、空きほ場の流動化を目的に地図化を進めており、今後は、まにわぶどう部会にも取り組みを広げていきます。



空きほ場の地図情報

②品質向上と産地規模の拡大

シャインマスカットの高品質化を目指して、開花期以降の副梢管理の徹底による大粒化を図りました。しかし、本年度は果粒肥大不足傾向の中、副梢管理だけでは十分な効果が得られませんでした。来年度は初期生育の確保と副梢管理を併せた展示ほを設置し、課題解決を図ります。



展示ほ結果（上調査区、下対照区）

③販売力強化（まにわぶどう部会）

販売単価向上を目指し、重点市場である岡山市場と意見交換し、出荷計画などの情報提供をしました。市場からは、真庭産ぶどうを高く評価していることが伝えられ、規格に基づく正確な選果の重要性を再認識しました。また、適時適切な情報提供を求められ、来年度はできるだけ正確に、出荷量などの情報を提供できる体制を整備し、販売力の向上に結びつけます。



市場とオンラインで意見交換

II 地域の動き

【2】研修会で交流を深める

真庭地方農業士会・真庭農企業者クラブ（会員29人）では、本年度は3年ぶりに対面式で総会を開催することができ、ウィズコロナとして活動をしてきました。

7月27日には真庭市北房地域で訪問交流会を行い、関係機関を含めて13人が参加しました。

当日は、令和4年度新任農業士となった会員や農業実務研修生を受け入れている農業法人、ぶどうを栽培している青年農業者2人のほ場を訪問し、北房地域での新規就農者の栽培状況や青年農業者の経営状況等を学ぶとともに、青年農業者等へのアドバイスや激励を行い、交流を深めました。

また、11月22日には、赤磐市是里地区及び岡山市北区御津国ヶ原地区にて「新規就農者等を核とした産地育成」及び「農福連携」をテーマとした県内視察研修も行い、真庭地域での新規就農者確保、農福連携の参考としました。



訪問交流会



県内視察研修

【3】青年農業者クラブが農業の楽しさをYouTubeで発信

真庭地域への新規参入希望者が少ないため、真庭の農業の楽しさを地域外の人に知ってもらおうと、真庭新農業経営者クラブ連絡協議会は、本年度の活動として、会員の特徴的な経営をYouTubeにアップして全国に発信することにしました。

第1弾は、北房地域のぶどうの若手の会が標高の高さを活かした品質の高いぶどう栽培の取組みと、北房地域で就農する人に向けたメッセージを発信しました。

第2弾は、就農1年目の青年農業者の経営紹介と今後の夢を語ってもらいました。お茶やぶどう、露地野菜など多彩な品目での就農形態を紹介しました。

第3弾は、条件の厳しい中山間地で野菜複合経営に取り組む会員の経営の工夫を紹介しました。

今後も、第4弾、第5弾と特徴ある農業経営の実態をYouTubeにアップし、真庭の農業の魅力を発信していきます。



若手の会がぶどうでの就農をPR



新規就農者を訪問して意見交換

【4】全国和牛能力共進会鹿児島大会ルポ

令和4年10月6日から10日まで全国和牛能力共進会鹿児島大会が開催され、全国の出産団が改良の成果を見せようと闘志を燃やしていました。岡山県は牛の資質だけでなく、高い調教技術を駆使して人牛一体となり、新設された高校農業大学校の区、脂肪の質を評価する第7区を含む4つの区で優等入賞を果たしました。県のPRブースには多くの一般の方が来場し、岡山和牛とともに県全体の魅力を知ってもらう非常に良い機会になりました。

5年後の北海道大会では肉牛の部も種牛の部も更なる好成績を収めることができると期待しています。

長期に渡り全共に向けて精進いただいた生産者の皆さん、応援してくださった地域の皆さん、日々指導に当たられた多くの関係者の皆さんに敬意を表します。お疲れ様でした。



真庭地域出品牛(第7区優等賞)
繁殖農家：福島章晴(真庭市古見)
肥育農家：新極達夫(真庭市関)



枝肉の様子

【5】りんどう産地振興がんばっています

(1) 新規栽培者が初収穫

新庄村では、令和3年6月から栽培を始めた民間企業、創林社が、令和4年7月に初出荷しました。

普及指導センターは、定植から間引き、ネット上げ、病害虫防除など栽培技術の習得を支援してきました。久々の新規栽培者に周囲も活躍を期待しています。

(2) りんどうPR動画を公開

りんどう栽培に関心を持ってもらうため、津山地域、勝英地域と合同で、りんどうのPR動画を作成しYouTubeで公開しました。美作広域の各生産者が出演しており、真庭地域では、新庄村や蒜山地域の生産者が栽培の実際や仲間づくりに向けたコメントを発信しています。右のQRコードから動画を見ることができます。

今後も産地と連携して新規栽培者の確保、育成を目指します。



収穫作業をする新規栽培者



YouTube



りんどうPR動画リンク

【6】 専門家を活用した経営改善を支援しています

農業は栽培技術の向上の他、経営を維持・発展させるための改善も重要です。

普及指導センターは、農業者の相談内容に応じた専門家を招き、無料で個別指導を受ける活動をしています。

真庭地域での令和元年度～4年度11月までの派遣実績は延べ12件、中小企業診断士、税理士、司法書士、社会保険労務士が派遣されています。相談内容は法人化の検討や手順、経営継承、税務相談、雇用者の労務管理や就業規則作成など多岐に渡ります。

個別指導は和やかな雰囲気で行われ、専門家からしか聞けない知識が得られます。

普及指導センターが手続きを行い、当日立ち会いますので、農業者にとって初めて会う専門家でも、安心して相談できます。

経営を改善したいけれど「知り合いの専門家がない。」「どの専門家に聞けばいいかわからない。」といったお悩みがある方は、ぜひ活用ください。

(専門家は会議の決定を経て派遣されます)



専門家の話を聞く農業者（左端）



熱心にメモをとる農業者（手前）

【7】 未来に伝える真庭の郷土料理 ～レシピ動画で技術伝承～

真庭地域の郷土料理の伝承技術を次世代に伝えることを目的に、令和3年度からレシピ動画を作製しています。昨年度作製した「さば寿司」のレシピ動画を真庭管内の栄養改善協議会で紹介し、食育推進活動を呼びかけました。

QRコードから動画を視聴した栄養委員からは「動画はわかりやすいし、何度でも再生できていい。」との声がありました。

また、本年度は、(一社)むらづくり新庄村と連携し、新庄村の郷土料理「新庄おこわ」「たきみずな(ウワバミソウ)の炒め物」「柏餅」のレシピ動画を作製しました。動画には、たきみずなの収穫と下処理の様子もあり、「この山菜は見たことがある。食べられるとは知らなかった。」との声も寄せられました。

新庄村の郷土料理動画は、普及指導センター公式YouTubeチャンネル「あぐりまにわ」に公開していますのでぜひご覧ください。

真庭農業普及指導センター公式YouTubeチャンネル「あぐりまにわ」

https://www.youtube.com/channel/UC4V0Z_6vjxDEqZcR-MCC6dg



新庄村でレシピ動画撮影



QRコードで動画を視聴

Ⅲ 技術の紹介

【8】スマート農業技術！アイガモロボット発進！

水稻における有機栽培の課題は除草対策です。アイガモ稲作が代表的な方法ですが、鳥獣害対策のためのネット設置やテグス張りなど、事前準備が必要です。

そこで、鳥獣害対策や餌やり作業などの必要が無いアイガモロボットの実証に取り組みました。

アイガモロボットはスマートフォンで田んぼを登録するとソーラーパネルで自家発電しながらプログラム通りに動き、底に付いているスクリューで泥をかき回し、水を濁らすことで抑草効果が期待されます。アイガモは稲が活着する田植え2週間後から投入しますが、ロボットは田植え直後から投入しても、稲を傷めないため、田植え2日後から約3週間、田んぼで活躍しました。

今年は雨が少なく、田んぼの水位の確保が難しかったため、一部に草が発生しましたが、実証結果を基に改良を重ね、来春には一般販売される予定です。



アイガモロボット現地研修



底のスクリューで泥をかき混ぜる

【9】肥料の被覆殻流出問題の解決に向けて

一般的に普及している緩効性肥料はプラスチックによる被膜が大半を占めており、海洋汚染の原因として近年問題となっています。そこで環境に優しい新たな緩効性肥料について実証しました。

実証に使った肥料は化学合成で緩効性に加工したウレアホルムや、プラスチックの代わりに硫黄でコートした被覆肥料など、自然由来の成分に分解される緩効性肥料です。海洋汚染の原因にはなりません。肥料の溶出が安定しないことが心配されましたが、ヒメノモチで行った肥料試験では慣行の被覆肥料（セラコート）と比較しても生育に大きな差はありませんでした。収量も慣行区が600kg/10aに対して、ウレアホルム、硫黄コートはそれぞれ592kg/10a、581kg/10aとなりました。

引き続き被覆殻対策について検証していきますのでご協力をお願いします。



田んぼの水尻に溜まる被覆殻

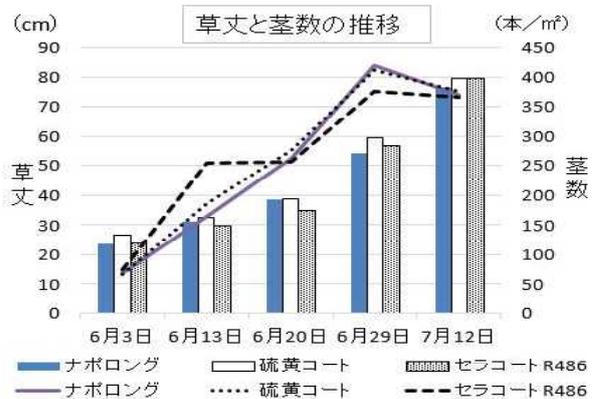


図 3 肥料区の生育推移

【10】白ねぎの収量向上対策のため栽植密度を検討しました

真庭地域の白ねぎは、選果効率を上げるためM規格以下の細いねぎは共同選果場に出せなくなりました。ねぎの太さは、2L規格の収益率が最も高いことから、南部の部会で、慣行のチェーンポットCP303（株間2.5cm、40株/m）苗と株間を広げたチェーンポットLP303（株間3.3cm、30株/m）苗で収量面、経営面の違いを実証しました。

その結果、いずれの品種ともLP303区は苗代が半減し、株間が広いために2L率は高くなりました。

一方で、栽植本数が少ないことにより、欠株やM規格以下が発生するため、収量が慣行（CP303）区と同等、もしくはそれ以下になり、販売額の確実な増加にはつながりませんでした。

栽植密度を下げるだけでは収量向上に繋がらないことがわかりましたが、生育の早い品種では期待できる可能性もあり、今後も検討していきたいと思えます。

表 収量調査結果

		葉鞘径 (mm)	軟白長 (cm)	2L率	M以下・ 外品率	収量 (kg/10a)	販売額※ (千円)
夏扇4号	L P	24.1	31.0	59%	7%	2,912	954
	C P	21.4	31.8	36%	14%	2,768	897
関羽一本太	L P	23.3	29.5	57%	13%	2,167	701
	C P	22.1	30.0	33%	22%	2,674	771
大河の轟	L P	23.1	31.4	57%	14%	2,603	854
	C P	22.9	33.2	53%	3%	2,992	1,018

※販売額は、規格別に収穫本数と部会平均単価を乗じたものに苗代を控除した。

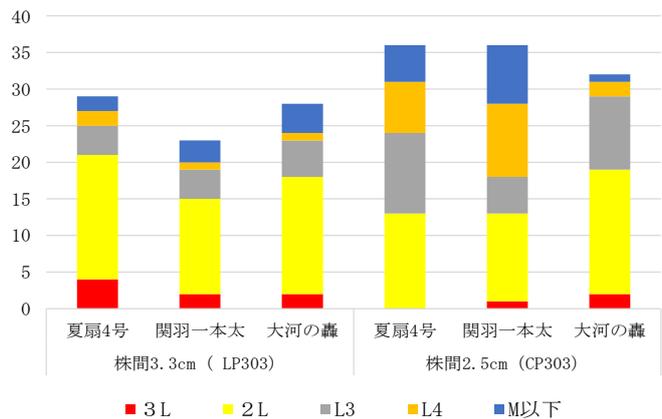


図 規格別収量本数

【11】白ねぎ夏どり品種を調査しました

蒜山地域は夏季冷涼な気候を活かし、夏秋どりの白ねぎ産地として8月から出荷をしていますが、8月どりをする場合、①軟白長が短くなること、②調整一本重が軽くなること、③軟腐病が発生しやすいことが問題となっています。そこで生育が早く、病害に強いとされる品種「項羽一本太」の栽培適応性を調査しました。

調査の結果、「項羽一本太」は8月の出荷基準となる軟白長27cmの基準を満たし、慣行品種の

「夏扇パワー」と同等の生育を示しました。また、「項羽一本太」は「夏扇パワー」と同様に単価の高い2L規格で生育が揃い、産地の目標反収である3トンを超え、収量が期待できることがわかりました。欠株は両品種ともに少なく、特に「項羽一本太」は優れていました。

以上のことから、夏どりにおいて、「項羽一本太」は蒜山地域に適していると考えられます。

表 収量調査結果

	草丈 cm	葉鞘径 mm	葉鞘長 cm	軟白長 cm	調整一本重 g	換算収量 kg/10a	欠株率 %
項羽一本太	95.3	25.8	32.7	30.6	177.6	3,552	7.5
夏扇パワー	96.7	26.0	32.5	30.1	181.6	3,453	12.5

定植日：4月9日 収穫調査日：8月25日 (1m調査)

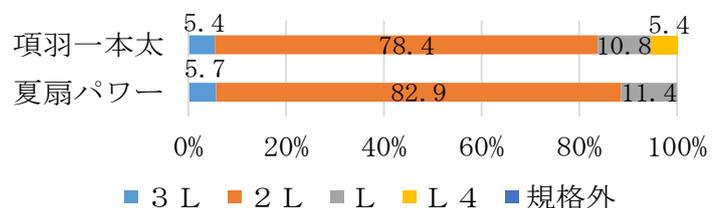


図 規格別割合

【12】夏秋トマトの葉先枯れ対策について

トマトの葉先枯れは、灰色かび病の発生源となり、安定した収量を確保する上での大きな課題です。葉先枯れは土壌や施肥のカリウム不足により引き起こされることから、発生軽減を目的とした実証を行いました。

今回は、予め土壌のカリウム飽和度を矯正した上で、カリウム含有の葉面散布資材「ニュートリバントプラストマト（100倍希釈）」を用いた葉面散布区と、酸素供給剤「MOX」を用いた酸素剤区、及び土壌のカリウム飽和度を矯正せず、カリウム補給もしない無処理区の3つを設置しました。

結果、葉面散布区と酸素剤区の葉先枯れの発生程度は、無処理区と比較して、大きく軽減されました。以上により、土壌のカリウム矯正と各資材の使用は葉先枯れの対策となることが分かりました。

今後も現場での課題に取り組み、産地の収量向上を目指します。



葉先枯れの発生程度

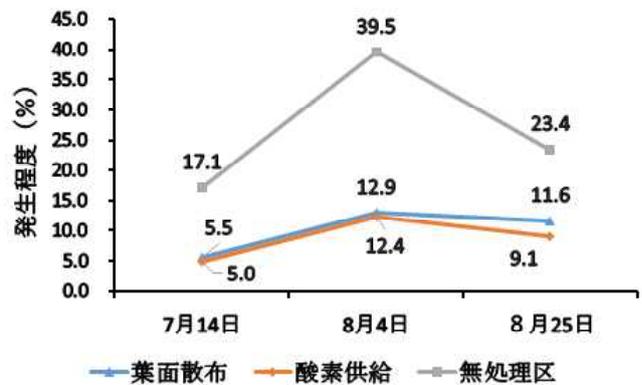


図 葉先枯れの発生程度の推移

【13】ぶどうの粒間引き作業負荷軽減に向けて～肩こり良くなるかな～

まにわぶどう部会は、スマート農業技術活用に向けて、農作業用アシストスーツの紹介と試着を行いました。

今回紹介したアシストスーツは、上腕の負担の大きい花穂整形や摘粒などの作業で、腕を上げる動作の軽減に効果が期待できるものです。腰のベルトから出た棒で腕を支え、バネ等で強さを調整します。試着した人は、「肩が痛くて困っていた。連続して使うと楽になった。」との意見がある一方で、「装着が煩わしい、他の作業をするときに邪魔になる。」との意見もありました。

価格が約4万円から13万円と高価で、効果には個人差があるため、部会員の導入は2人にとどまりましたが、アシストスーツの紹介により、部会員のスマート農業への理解が進みました。

今後もアシストスーツ等のスマート農業器械や機械の情報提供を行い、農作業の省力化や効率化を支援していきます。



ハウスでの試着



露地での試着

【14】はじめまして！よろしくお願いします ～新規就農者の自己紹介～



丸山 心 さん

エリア：真庭市八東地区
作 目：酪農

幼い頃から実家のジャージー牛を中心とした酪農経営を見てきました。飼養管理や草地管理をうまく継承し、自給飼料の生産性向上と増頭を目指して、省力施設への改装と乳質改善に努めていきたいです。



入澤 健斗 さん

エリア：真庭市八東地区
作 目：酪農

親との作業分担で搾乳、糞尿処理、草地管理を行っています。数年後の法人化に備え、経営者の一人として、できることを増やし、高能力牛への転換を行い、効率の高い酪農経営を継承できるようにしていきたいです。



松岡 稔貴 さん

エリア：真庭市久世地区
作 目：露地野菜

やりがいを感じることができる農業に惹かれ、野菜作りを始めました。

年間を通して出荷し続けられる生産体制を目指して頑張ります。



松尾 祥希 さん

エリア：真庭市落合地区
作 目：水稻

本年度から水稻17haで経営を開始しました。

儲かる農業を目指して、水稻以外の品目を取り入れた複合経営に挑戦しつつ、耕畜連携も図りながら、地域農業の維持・発展のために頑張っています。

V 受賞者の紹介

【15】祝！受賞！おめでとうございます

《第69回矢野賞》

馬場 克典 さん（真庭市）

海上自衛隊を除隊後、兼業で行っていたぶどう栽培に魅力を感じ、平成25年にぶどう専業で経営を開始しました。

品種や作型の組み合わせを工夫し、地域トップクラスの栽培面積を実現するとともに、作業の効率化により雇用労力に頼らない経営は、真庭地域のぶどう経営モデルとなっています。

青年農業者クラブやぶどう部会の役員として活躍し、就農アドバイザーとしても新規就農者受入体制の整備に尽力するなど、その人柄と高い技術力で産地活性化に大きく貢献しています。



《第55回岡山県農林漁業功労者表彰》

農産部門 農林水産部長表彰

池町 浩美 さん（真庭市）

真庭地域のぶどう共進会で多数入賞し、令和元年度岡山県ぶどう共進会では最優秀賞を受賞しており、高品質栽培において、地域の模範となっています。

旧JAまにお管内にあった6組織によるぶどう生産組織協議会を統合する際には、久世支部長として、組織統合や部会設立に尽力しました。

また、部会設立時から部会長を務め、新規就農者の確保や産地振興に貢献しています。



《令和4年度岡山県茶品評会》

中国四国農政局長賞 梶岡 伶史 さん（真庭市）

岡山県知事賞 有限会社 寿園（真庭市）

品評会には真庭市、美作市、新見市から「せん茶」、「かぶせ茶」あわせて17点の出品があり、梶岡伶史さんと父親が経営する有限会社寿園が上位に入賞しました。

審査長から「以前より外観が向上しており、品質も良好で、生産者の熱意を強く感じた。」との講評がありました。



VI 新任農業士の紹介

【16】普及活動にご協力をお願いします

本年度から岡山県が認定する農業士となられた3人を紹介します。



上山 悟さん

住 所：真庭市上中津井
作 目：果樹（ぶどう）、野菜（きゅうり等）

上山さんは現在ぶどう20a、きゅうり11a、その他野菜（ハウレンソウ等）20aの園芸複合経営を行っています。

また、市場を通じて、岡山県内の小売店との契約出荷を行うなど、小規模経営でも経営が安定できるように努められています。

近年、北房地域では若い農業者が年1～2人就農しており、就農希望者が1人でも多く就農できるよう、アドバイスやサポートをしていただきたいと思います。



池町 浩美さん

住 所：真庭市中原
作 目：果樹（ぶどう）、水稻

池町さんはぶどうを中心とした経営を行い、基本技術励行に努め、高品質ぶどう生産に励まれています。

また、JA晴れの国岡山まにわぶどう部会長として、真庭地域のぶどうを県内外に幅広くPRし、多くの人に知ってもらえるように奔走されています。

現在、露地ぶどう栽培の管理作業を1人でやっているため、現状での規模拡大が難しいことから、作業分散のために令和6年から加温ハウスに挑戦されます。

17年間のぶどう栽培の経験を活かして、若手生産者や新規栽培者への栽培技術指導等に取り組んでいただきたいと思います。



妹尾 活明さん

住 所：真庭市下河内
作 目：水稻、野菜苗等

妹尾さんは水稻、野菜苗生産の他、露地野菜栽培など複合経営を行っています。

また、地元の障害者福祉施設と連携して入所者を個人的に受け入れ、野菜苗管理等の作業を担ってもらっており、真庭地域の農福連携で先駆的に取り組んでおられます。

就農希望者や新規就農者等の相談対応や就農支援も積極的に行っておられ、今後も真庭地域の地域振興、農業振興に活躍していただきたいと思います。

【問い合わせ先】

《岡山県美作県民局 農林水産事業部》

○真庭農業普及指導センター

〒717-8501 岡山県真庭市勝山591

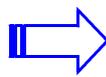
担い手・農産班 TEL 0867-44-7582

園芸班 TEL 0867-44-7583・7585

FAX 0867-44-4046

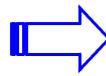
Eメール：maniwa-fukyu@pref.okayama.lg.jp

ホームページ：https://www.pref.okayama.jp/soshiki/127/



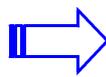
フェイスブック：真庭市・新庄村の農業最前線
(真庭農業普及指導センター)

https://m.facebook.com/maniwafukyu/



Youtubeチャンネル「あぐりまにわ」☆チャンネル登録を☆

https://www.youtube.com/channel/UC4V0Z_6vjxDEqZcR-MCC6dg/featured



○農畜産物生産課

〒717-8501 岡山県真庭市勝山591

畜産第二班 TEL 0867-44-7564

FAX 0867-44-4754

○美作広域農業普及指導センター

〒708-8506 岡山県津山市山下53

革新農業推進班 TEL 0868-23-1496・1513

FAX 0868-23-5962

Eメール：tsuya-fukyu@pref.okayama.lg.jp